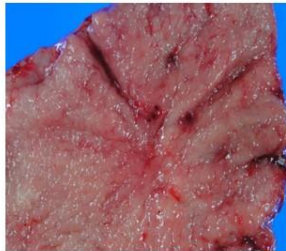


胃癌とは

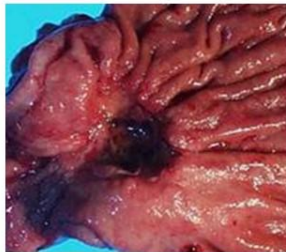
胃粘膜に発生した胃がんは、何年もかかって検査で発見可能な数mm大の大きさになり、放置すると胃壁を外に向かって粘膜下層、固有筋層、漿膜下層、漿膜へと徐々に深く進んで行きます。発育の方向として、管腔内への隆起、水平方向への拡大もみられ、主に水平方向へ浸潤していく種類のがんもあります。また転移としては主に肝臓転移、リンパ節転移、腹膜転移があります。

胃がんの広がり方

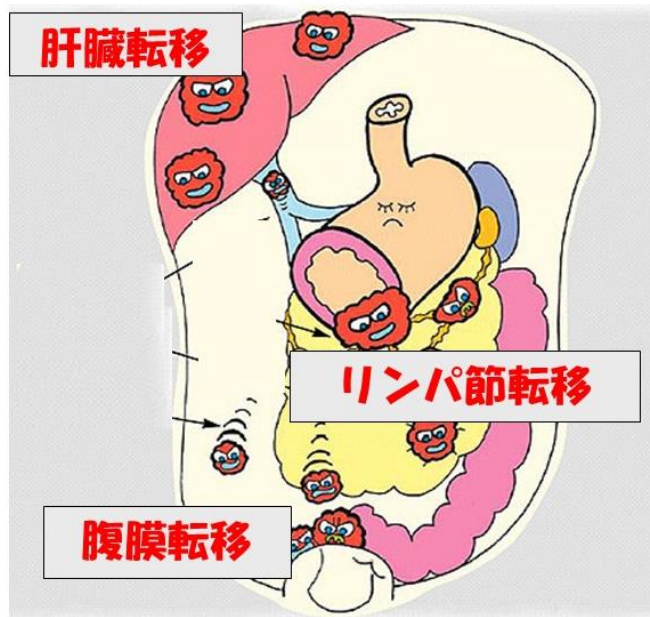
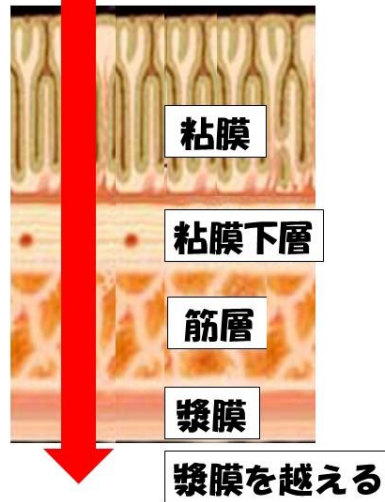
早期癌



進行癌



胃の壁



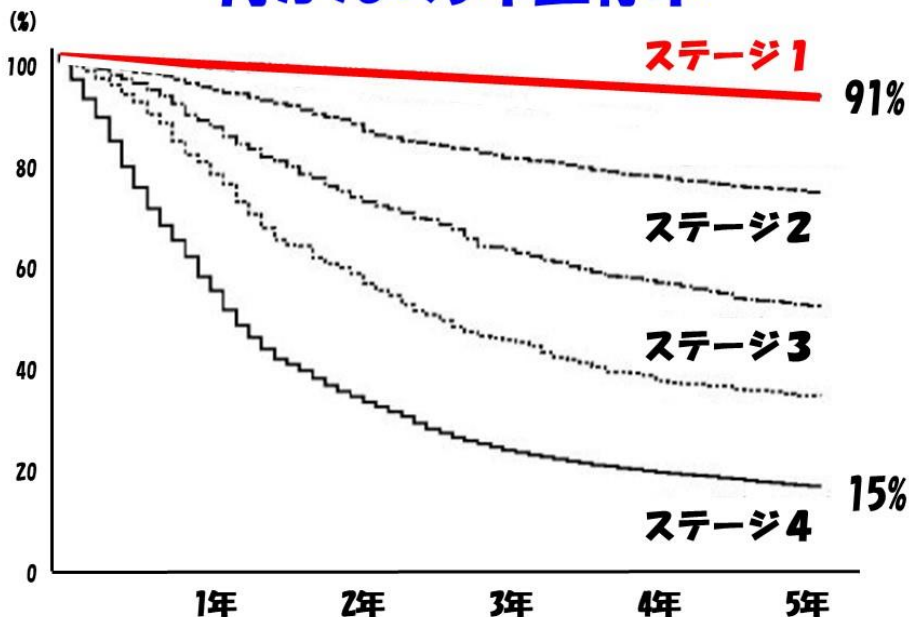
胃癌とは

胃がんの進行度をステージと呼び、I、II、IIIA、IIIB、IVに分類されています。これは長年にわたる治療成績の検討の結果、深達度、リンパ節転移の程度、他の臓器の転移の有無を組み合わせて決定されています。

病期(ステージ) リンパ節転移

	なし	2個 まで	6個	7個 以上	遠隔 転移	
胃壁の深さ	粘膜/ 粘膜下	1	1	2	4	
	筋層	1	2	2		3
	漿膜	2	2	3		3
	漿膜外	2	3	3		3
	他臓器	3	3	3		3

胃がんの5年生存率



胃癌の手術

胃切除は腫瘍の位置により、幽門側切除術、噴門側切除術、全摘術を、幽門保存胃切除術行っています。当院では積極的に腹腔鏡手術を行っています。腹部に1cm程度の穴を4~5カ所あけて腹腔鏡というカメラで観察しながら胃の切除を行います。胃を切除した後は食事を通るように再建をしなければならないのですが、再建も腹腔内ですべてを行う、完全腹腔鏡手術を行っております。手術創が小さくすむと痛みが少なく、術後の回復が早いため、少しでも患者さんの負担を軽減するためにこのような術式を取り入れています。

開腹手術

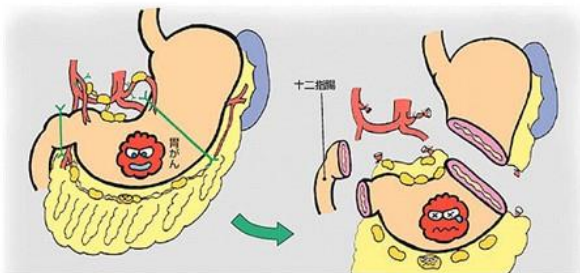


腹腔鏡手術

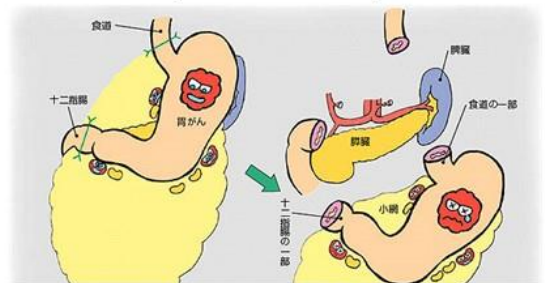


腹腔鏡手術

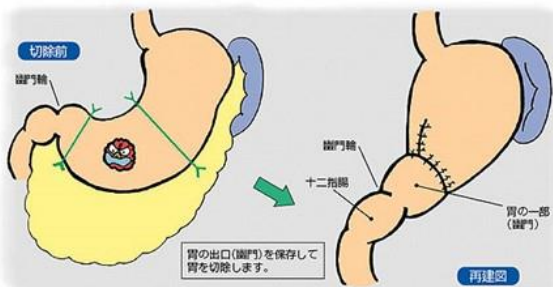
幽門側胃切除術



胃全摘術



幽門保存胃切除術



噴門側胃切除術

